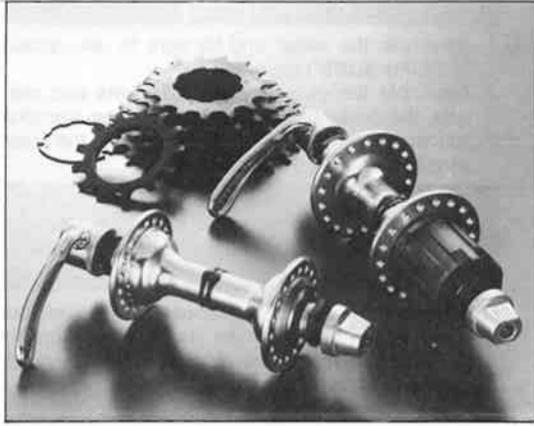


取扱説明書

シマノ105 シリーズ フリーハブ

- FH-R105 フリーハブ
- HB-F105 フロントハブ

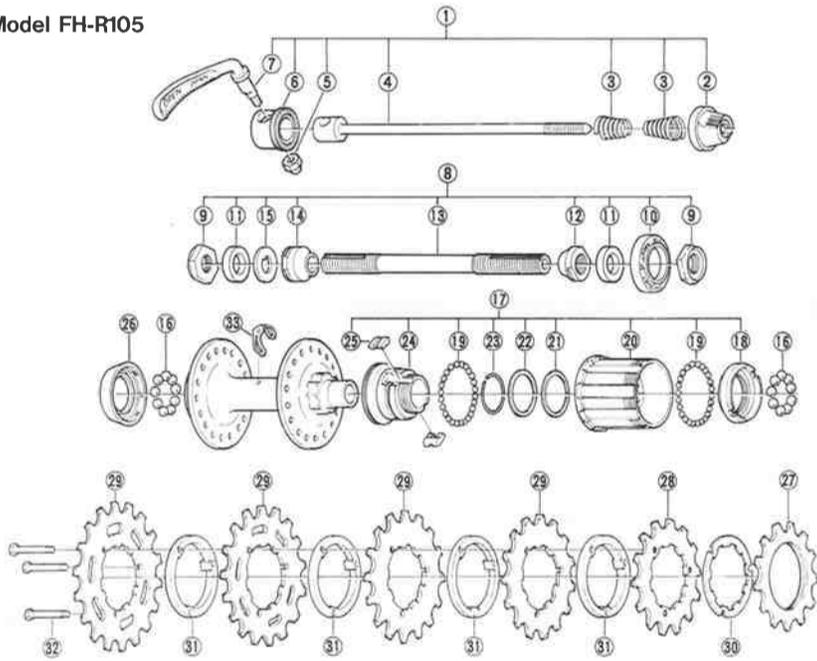


■特長

- 左右のスポークをほとんど同じ力で張ることにより、車輪の剛性が増しました。したがって従来の車輪にみられた使用後のリム振れ増加現象はほとんどなくなりました。(ユニバランス)
- ハブと多段フリーホイールを一体化することにより、当社比で6段用フリーハブ17%という大幅な軽量化を達成しました。
- 構造上、ハブのボール間隔は従来品より広くなり、ハブ軸の強度がいちだんと向上しました。
- ギア歯先は、高変速性を誇るUG面取を採用。

■分解図・パーツリスト

Model FH-R105



番号	コード番号	部 品 名	番号	コード番号	部 品 名
1	3-387 9801	クイック軸 組立品 159mm	26	368 1000	左防水キャップ
2	3-264 9010	調整ナット	27	357 1312	13Tギア
3	231 1100	ツルマキハネ	27	357 1412	14Tギア
4	243 0811	ロッド棒 159mm	27	357 1512	15Tギア
5	231 0800	袋ナット	27	357 1422	14Tギア
6	231 0500-1	ハウジング	28	357 1522	15Tギア
7	231 0600-4	カムレバー	28	357 1622	16Tギア
8	3-368 9801	ハブ軸 組立品 137mm(玉間126mm)	28	357 1722	17Tギア
9	220 0502	宙付ロックナット 3.5mm	28	357 1532	15Tギア
10	357 5702	右防水キャップ(グレー)	28	357 1632	16Tギア
11	241 1100	軸間座 5.5mm	28	357 1732	17Tギア
12	220 0850	右玉押し M10×9mm	28	357 1832	18Tギア
13	243 2001	ハブ軸 137mm	28	357 1932	19Tギア
14	220 0800-2	左玉押し M10×13mm	28	357 2032	20Tギア
15	241 0700-1	舌付座金 1.5mm	28	357 2132-1	21Tギア
16	000 0131	鋼球(1/4) 18個	29	357 2232-1	22Tギア
17	3-353 9801	フリーホイール部 組立品	29	357 2332-1	23Tギア
18	357 5300	ネジフタ	29	357 2432-1	24Tギア
19	000 0111	鋼球(1/8) 50個	29	357 2632-1	26Tギア
20	357 2201	アウター	29	357 2832-1	28Tギア
21	357 5500	調子板 0.05mm	29	357 3032-1	30Tギア
21	357 5501	調子板 0.10mm	29	357 3232-1	32Tギア
21	357 5502	調子板 0.17mm	29	357 3432-1	34Tギア
21	357 5503	調子板 0.30mm	30	357 5800	ギア間座 A
22	357 5400	スペーサー 1.0mm	31	357 5900	ギア間座 B
23	357 5600-1	爪ハネ	32	357 6001	ギア連結ボルト
24	361 0301	インナー	33	217 0501	オイルキャップ
25	256 0700	爪			

■製品仕様

- 重量 フロントハブ 275g
- 重量 フリーハブ 418g(ギアを除く)
- 材質 軽合金
- 適用スポーク #14(線径2.0mm)
- 玉押し間隔 126mm
- 軸長 137mm
- チェーンライン 42.95mm
- オチヨコ量 5.5mm
- ギア替え歯 13T~34T
- トップギアネジ寸法 B.C.34.6×24山

製品改良のため、仕様を予告なく変更することがあります。

取扱上のご注意

- フリーホイール部は、出荷時、厳重な品質検査を受け、最良の状態に組立てられていますので、必要な場合以外は分解しないでください。
- シマノ105フリーハブをご使用になる場合、リアディレイラーには、ハッチプレート機構(左プレートをなくした新機構)付きのシマノ105リアディレイラーをご使用ください。

取付方法

- 1 ハブを従来通りリム組みする。スポークは#14(線径2.0mm)をご使用ください。
- 2 カセットギアをアウターのスプライン(溝)に合わせてはめ込み、次に、ギア間座Aを入れ、トップギア(最小スプロケット)をねじ込んでください。(図1)

注意 ギア間座Aの3か所の切欠き※をカセットギアの連結ボルトの位置と合う位置に取付けてください。

- 3 リムにタイヤをはめ、車輪をフレームの中心にセットします。次に、クイックリリースのカムレバーを締付けて車輪をフレームに固定します。

クイックリリースの締付方法

調整ナットを調整して、カムレバーをCLOSEの刻印が見える方向に強く締付けて車輪をフレームに固定します。

締付トルク: 90kgfcm

カムレバーを締めたときの「手ごたえ」がゆるいと思われるときは、調整ナットを時計方向に回して、再びカムレバーを締付けてください。逆に、締まりすぎてカムレバーが倒れないときは、調整ナットを反時計方向に回して、もう一度カムレバーを締付けてください。(図2・3)

ギア交換・組替え方

- ギアの交換は、2本のスプロケット回し工具を使用し、トップギア(最小ギア)をはずすことによって残りのカセットギアを取りはずすことができます。

カセットギアの組替えは、3本の連結ボルトを抜いて行います。組替えは、アウターの溝を利用して行うと楽に作業できます。ギアは歯先の面取りをしてある面がローギア側になるようにし、最後に連結ボルトで軽く締付けてください。(図4)

締付トルク: 15~20kgfcm

フリーホイール部の交換および分解

- 1 ギアをはずし、続いてクイックリリースを抜き、左側(フリーホイール部と反対側)のロックナット、間座、左玉押しをはずし、ハブ軸を右側(フリーホイール部の方向)へ抜きます。(図5)

- 2 工具をB、C、34.6の刻印の面の方向からフリーホイール組立品にネジ込み、工具本体を固定し、中央の押子を時計方向に回して、フリーホイール組立品をハブシェルから抜きとります。(図6)

- 3 フリーホイール組立品を交換したのち、再び組み込む場合は、フリーホイール組立品を、ハブシェルの突起に合わせて差し込み、フリーホイールの玉当り部に圧入工具をセットしてハブ軸をハブ体に差し込みます。同じように左玉当り部にも圧入工具をセットし左玉押しをねじ込みます。(図7、8)

- 4 続いて図9のようにフリーホイール組立品がハブ体に密着するまで、左玉押しを締込んでください。(図9)

締付トルク: 80kgfcm

注意 フリーホイール組立品とハブ体が密着してからは、左玉押しを締めないように注意してください。

- 5 フリーホイールがハブ体に密着したのち、左玉押しをはずして圧入工具をとり出し、①の逆の順でハブ軸を組み付け、ハブ軸にガタがなくスムーズに回転する最良の位置に玉押し調整を行います。

フリーホイール部の分解・組立

- フリーホイールを分解するときは、ハブシェルにインナーを差し込み、ネジフタ戻き工具(TL-FH40)をネジフタの切欠部にセットして時計方向に回し分解します。また組立は、分解時の逆の手順で行います。(図10)

締付トルク: 350~450kgfcm

